

め多くの自治体が導入している。

20日は24年度採用の教員

選考試験の状況も発表し

た。小中学校・高校・特別

支援学校などを含めた総受

試験から小論文を廃止し、
大学や大学院から推薦され
た受験者の試験を一部免除

する特別選考枠を新設する
など見直しに取り組んでお

県教委 全校種対象、人材確保へ

教員採用試験

減少傾向にある公立学校の教員志願者確保に向け、県教委は20日、2025年度採用の教員選考試験から、大学3年生の時に一部試験を1年前倒しで受験できる制度を導入すると発表した。学生の負担を分散させるとともに、早い段階で教職への関心を高めてもらう狙い。全国各地の教委が優秀な人材を得ようとさまざまな試験改革を進める中、学生から受験先として選ばれやすくする効果も期待される。

県教委によると、対象は小中、高校、特別支援、養護の全校種。翌年度に教員免許を取得できる見込みの3年生が、1次選考の「一般教養・教職に関する科目」を前倒し受験できるようになる。

背景には教員のなり手不足がある。本県の小中学校の教員採用試験は、応募者数が08年度の1600人超から23年度に1076人と3割以上減った。高校も08年度の700人程度から23年度は437人に落ち込んだ。

期待される効果について①合格した受験生は専門教科の勉強や教育実習に専念でき、優秀な人材確保につながる②早い時期に受験

委が教員免許を持たない社会人や取得の見込みがない学生でも受験でき、免許は合格後に取得してもら

う特別選考を新設するなど、さまざまな改革を進めている。大学3年時受験の仕組みも、東京都をはじめ

学校人事課は「3、4年生で試験を分割し、より受けやすくした。大学での学びを豊かにしてほしい」と

71人だった。倍率は採用予定者数が増えた影響もあり、前年度を0.02倍下回る3・5倍だった。

(中里圭秀)

大学3年で一部受験可

人材確保は全国的な課題となつてあり、各地の教